

発行所
富山市願海寺水口444番地
富山国際大学附属高等学校
新聞部
ホームページアドレス: http://www.tuins-h.ed.jp
印刷所 北日本印刷株式会社



特集 2年生 研修旅行 海外3・国内2コース 全コースで充実した研修に



英語の必要性痛感

2年生は12月、海外3、国内2の計5つのコースに分かれて研修旅行に出かけた。今回のコースと参加人数は、シカゴ11人、シドニー31人、シンガポール7人、沖縄38人、西日本78人。

新聞部では、旅行後の2年生に、研修旅行を通して何を感したかなどをアンケート調査した。加えて、毎年恒例、各コースに参加した新聞部員10名による紀行文も掲載する。

今回の研修旅行は、西日本、海外3コースを選択した生徒が全体の約半数を占めた。「際限なく現地を訪れてみて、学んだこと何ですか」という質問に対し、西日本コース「石見銀山について、沖繩コース「戦争の悲惨さ、シカゴコース「現地の生活習慣、シドニーコース「食文化と歴史、シンガポールコース「英語の大切さ、それぞれ最も多く挙げられた。事前学習で調べたこと以外の発見も多くあり、とても充実した研修となった。

海外へ行くことで英語の必要性を感じたという質問には、約8割の生徒が「感じる」と答えた。「買い物をする時」「何か物事を尋ねる時」などが多く挙げられたが中には、英語の必要性を感じたという声もあつた。

「日本は色々な文化を味わえた。現地では食べられない食べ物や飲み物を食べた。」「ネイティブスピーカーと英語で話せることができた。」「今までの経験が多すぎた。今回訪れた場所へもう一度行ってみたいと思う生徒は、とても多い。今回の研修旅行が有意義なものとなったことが分かる。【山口 尊】

「海外へ行くことで英語の必要性を感じた」という質問には、約8割の生徒が「感じる」と答えた。「買い物をする時」「何か物事を尋ねる時」などが多く挙げられたが中には、英語の必要性を感じたという声もあつた。

「日本は色々な文化を味わえた。現地では食べられない食べ物や飲み物を食べた。」「ネイティブスピーカーと英語で話せることができた。」「今までの経験が多すぎた。今回訪れた場所へもう一度行ってみたいと思う生徒は、とても多い。今回の研修旅行が有意義なものとなったことが分かる。【山口 尊】

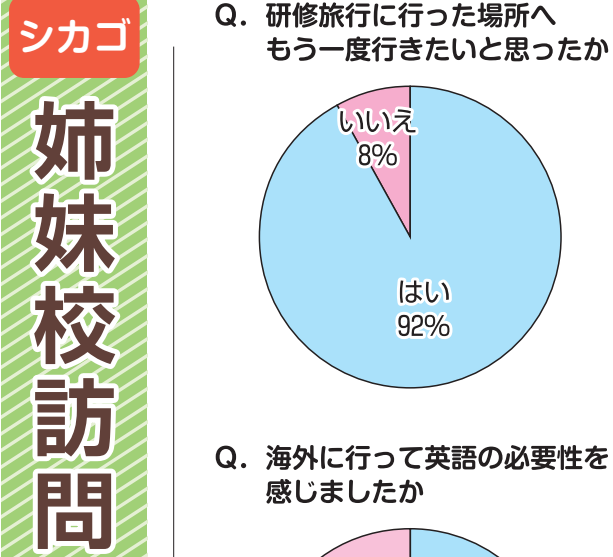


シカゴ 姉妹校訪問で交流

私達は他のコースよりも少し早く富山を出発し、10日間はアメリカ・イリノイ州シカゴのチェスターン高校で日本語を教える津川先生が、クリスマス意識したサンタの帽を被って出迎えてくれた。

到着した。空は曇り、私達を迎えるチェスターン高校が訪れるチェスターン高校で日本語を教える津川先生が、クリスマス意識したサンタの帽を被って出迎えてくれた。生徒が笑顔で迎えてくれた。バスで高校に向かいました。

学校は朝7時40分に始まり、午後7時45分に終わります。授業時間は90分の4コマです。アメリカにはクラスというものが存在しません。生徒達が自分で授業を選択し、生徒自身が授業動きまわります。また、5日間のうち月水金はマールデン、火・木はゴールドデューといふ。私のホストは、マールデンの工、ゴールドデューの日世界史・work out 教室を選択していました。授業の間の休みは7分間、その間の次の教室へ移動しなければならぬため、とても大変でした。5日間学校へ通い、休日はホストファミリーと過ごして日本にはない食べ物やアウトレットに行きました。ホストファミリーとの別の日には、涙をこらえてくれると思わず泣き出す生徒もいました。別



西日本 快晴続きの4日間

西日本コースは天気がいい日が続き、普段経験しないことと多く経験できました。1日目、最初に僕たちを迎えてくれたのは鳥取砂丘でした。テレビやインターネットで見ると圧迫的な迫力があつたのを借しながら、私達はシカゴへ向かいました。

シカゴでは、竹田先生が事前に調べてくれた美味しいシカゴピザの店へ行きました。シカゴピザはとて分厚い、焼きあがるまでの時間が長かったです。そして、翌日はガイドさんにシカゴの街を案内してもらいました。シカゴの街は高層ビルが多く、「建築の街」と言われています。1月に就任するトランプ次期大統領のビル「トランプタワー」も訪れました。トラップタワーは眺めるだけでなく、他のビルは圧迫的な存在を感じました。

ホストファミリーと過ごした時間や現地の学校での体験、シカゴの街並みなど、10日間様々な経験をすることができました。今回初めてのホームステイという生徒もいました。それぞれ不慣れた環境に思いますが、今までの研修旅行を通して成長できた部分もあると思います。チェスターン高校姉妹校なので、機会があれば訪れたいと思います。【山崎 穂乃香】

沖縄 伝統文化や歴史知る

研修1日目は、学校から飛行機で那覇空港へ向かい、そこから小松空港まで行き、そこからホテルに着き、夕食は1日を過ごした。

2日目は、平和記念公園に行き、沖縄戦で亡くなった人々の慰霊碑や平和の鐘を、歴史の丘「立山」の塔を、実際に見て、戦争の悲惨さや命の尊さを改めて知ることができた。次に、ひめゆり資料館に行った。講義を聞き、沖縄戦について深く知ることができた。館内は全部が展示で構成されており、貴重な証言や戦争の歴史について深く知ることができた。

3日目は、ひめゆり資料館に行った。講義を聞き、沖縄戦について深く知ることができた。館内は全部が展示で構成されており、貴重な証言や戦争の歴史について深く知ることができた。

4日目は伊江島から離れ、沖繩本島へ戻り、海洋博物館・美海水族館へ行った。世界一古く世界最大の水族館である美海水族館は、水族館の歴史や水族館の役割について詳しく知ることができた。

この5日間を通して、沖縄の伝統文化や歴史を知ることができた。とても充実した研修旅行となった。【W. E】



街中は、本音が砂でできていたのか目を疑ってしまうくらい細かく作られていた。プロジェクションマッピングとの融合も素晴らしい。2日目は、松江城に行きました。天守閣から見た松江の景色は素晴らしい。松江は、石見銀山で採れた銀や銅を、実際に使っていた道具を見ることができました。実際に坑道がある所までは電動自転車の移動だったので、疲れがたまりませんでした。出雲大社では、石見銀山の大規模な遺跡を見たり、特別参拝したりという貴重な経験ができました。

3日目の最初は、C城を守るためにさまざまな工夫を凝らして作られたという、夫を必死に守っていたという伝説が伝わりました。最後の日は、SJに行き、ハリボテの乗り物やジョーズ、ウォーターワールドのアトラクションに乗り、とても楽しめました。とても充実した4日間となりました。【T.S】



シンガポール 異文化体験を満喫

12月16日の早朝、雪による飛行機への影響が心配されたが、予定通り私たちは日本を出発した。1日目は、飛行機を降りてからの寒暖差に驚いた。英語が通じることが不安になりながら、店や食事を注文した。シンガポールの料理は日本とは味が違うが、美味しかった。

2日目は、現地の大学生にシンガポールを案内してもらった。聞き慣れないシンガポールの英語や、シンガポールの買い物の仕方は初めはわからなかったが、少しずつわかっていった。

3日目は、マレーシアに行き、民族衣装を着たり、現地のゲームをしたり、手でカレを食ったりといった貴重な体験をした。言葉が通じな

でも楽しく過ごすことができた。ホームステイをさせていた家族の方から、お土産として現地のお菓子をもらった。

4日目はセント・メリーズに行き、自由時間が多く、USで乗り物乗ったり、お土産を買ったりとみなさんそれぞれでハイキングをした。夜は全員でハイキングをし、ナイトサファリでライオンや鹿を見て、ハードな1日を過ごした。

シンガポールで特に驚いたのは、朝の時間でも外が真暗なところ。日本語を喋ることができない店員さんが多かった。文化も言語も違う国で様々な体験をしたことは、日本の良さ改めて感じることも多かった。私たちのかけがえのない思い出になった。この機会をうまく活かした先生や家族に感謝したい。【戸口 かのり】

シドニー 珍しいモノを見聞

出発日、富山から東京行き飛行機乗降のため欠航にならないうつらなことが起き、新幹線で東京へ向かい、1日目は東京観光をするつもりになりました。その日は、浅草寺やスカイツリーに行きました。浅草寺では、好きなお土産をお土産の揚げ餅を食べ、浅草寺でお参りし、日本の文化を味わうことができた。スカイツリーでは、第1展望台で東京の街を一望しました。そしてその日の夜、よみぎんホールに向かいました。

2日目は、バスに乗り、最初に現地の大学生との交流B&Sを行いました。各班に1人の女生が付き、色々なことを話しながらシドニーの観光地を案内してもらい、大きな建物、海の近くまで



れいで、ロックストーンという植民地時代の街並みが残されているところにも行きました。フィッシングボートを食べましたが、これもとても大きく食べました。その後、夕食はオージービーフのステーキを食べました。とてもおいしい経験になりました。そして、タロワ動物園に行きました。ローウェイに乗ってシドニーの街を一望することができました。海やオパールハウスを見ました。オパールハウスは、鳥が閉じられ、飛んでいくととても素晴らしいです。コアラやカンガルーの珍しい動物をたくさん見ることができてとても楽しかったです。初日からハンニングがあり、どうなるかと心配しましたが、とても有名な事象吸収することができました。また、段取りや方が、とても楽しかったです。【山下 祐】

★恋ダンスは振付そのもののロミカルな、そして「キッシー」(愛する)など思われる。このダンスはPerfumの昨年のリオ五輪振り付けを担当した振付師によって考案されたもので、日本向けにキッシーを第一に考案されたダンスだと言え、そのキッシーに魅せられ、若者を中心にSNS上に

昨年からの今年に、恋ダンスと「PPAP」が日本で大流行した。何故かにも流行したのか、その理由が、日本人が日本人のために作ったものであり、海外では理解されづらい。その点「PPAP」は、日本人のみならず英語を知りたても理解できる言葉を使用し、それを組み替えるだけで構成されている単純な歌詞のため、フレンドリーに受け取られる。

【浦澤 謙】

